

# 寺報

# 傘かえで

No. 7

発行 遍照山慈光寺  
久慈寺大川町22  
TEL 55-2660  
編集 田表永七

## 本堂、庫裏の屋根葺替

### 総工費五〇〇〇万円で銅板葺

11月中旬着工、7月完成予定

慈光寺整備委員会(氷内 肇委員長)は、かねてから、位牌堂建立後の慈光寺整備計画について検討を重ねてきましたが、このほど、本堂、庫裏の屋根葺替工事と決定し、請負業者との契約も終了しました。

請負業者は、仙台市に本社がある(株)東北カテナメで、神社仏閣の建築を専門とする業者です。

工期は、本年11月から、来年7月まで、はじめに、本堂の屋根から工事にかかります。本堂の屋根が終わってから、庫裏の屋根に取りかかります。

これは、法要等を行う場所を確保するために考えられたものです。

工事は、現在の屋根に使われているカヤ(ススキ)を取り除いて、銅板葺きに葺き替えるもので、カヤの処分が大きな

問題でした。

しかし、安ずるよりも生むが易しで、根井地区の馬内栄壽さんの協力で、カヤの捨て場所を提供していただきました。

総工費五、〇〇〇万円で、既に契約は終了していますが、この五、〇〇〇万円には、さきの位牌堂建立事業の残金があてられます。

現在の慈光寺の建物は、およそ二百年前に建てられたと言われております。

今度葺き替えられるカヤ葺き屋根は、昭和30年に葺き替えられたもので、既

に40年間<sup>以上</sup>風雪に耐えて来たことになり  
ます。  
今度の工事で、屋根が銅板葺きになれば、今後百年は大丈夫なのではないかと、請負業者の話です。

## 旧位牌堂を改装

### 参拝者控室と物置に

本堂裏にあった旧位牌堂は、改装して、参拝者控室(和室12帖)と物置(16帖)の二室に改装されます。参拝者控室からは、本堂裏の庭園が

## お寺をとりまく

### 子どもたち、達々

ことしに入って、慈光寺には、小学生、中学生、高校生たちが多く訪れるようになりましました。

それは、青少年の健全育成にかける若大黒さんの並々ならぬ熱意が大きな要因となっております。

若大黒さんは、いろいろな体験を通して心豊かな人間に育ってほしいとの考えから、子どもたちの体験行事を、月一回実施しています。

例えば8月は、久慈平岳でキャンプを

居ながらに眺められるように、窓面積が広く設計されています。

冬期間は、暖房も効率的な広さであり、小人数の集会にも活用できるなど、多目的な使用ができること期待されています。

物置も、長机、ぶいどん等が収納できるので、本堂や本堂わきの部屋も自然となつて広々と使えるようになります。



しました。

9月には、慈光寺で一泊合宿をしました。大学生や一般の人たちも、子どもたちの思い出づくりに協力してくださいました。

本堂や境内の朝さうじ、読経会の人たちといっしょに読経の練習、夢灯りクの作成等々多くの体験をすることができました。

また、中学生だけのサークルも作られ、第一、第三土曜日に集まって、しげ絵づくりや、お年寄りの方々へのお便り書きなど、積極的な活動をしています。

子どもたちの活動にお手伝いをして下さる大人の方を募集しています。ヨロシク

# 法話②

## 「中道」を生きる

### 「こころ」とももの



一般に、宗教といえは、教義(おしえ)や思想という観念(こころ)の面が強調される傾向があります。みなさんとも

に、宗教の教義について考えてみたいと思います。

世界や人々をどのように理解し、どうとらえるかという教義は、宗教の大切な構成要素です。

しかし、宗教には必ず体に結びつくところの儀礼があります。

たとえば、手を合わせる「合掌」とい

うことは、ほとんどの宗教に見られます。

頭の営みだけではなく、体がかかわって来るわけです。念仏や座禅も、法

とは何かと心で考えるだけでは、悟りの成就がむずかしいので、まず口で唱える

とか、胡坐をかくことにより、すなわち体という「もの」で法をつかまえようとする

ことかと思われま

茶道、舞踊などの芸事も、体を使った反復により身につけていきますが、禪な

どからの影響によると言われています。ですから、「もの」と「こころ」を二つに分けて、どちらが大切かというよう

な考え方には向題があると思います。

むしろ、「もの」の行き過ぎを批判して、「こころ」の重要性を説くことも大切ですが、むしろ、一つの「もの」として働かせて行くことが必要ではないでしょうか。

お釈迦さまは、「わたしたちは、否応なしに仏法の真実に包まれて生かされている。」と教えています。

更に、「その真実が、自分と別個に存在するわけではない。日々の生活のなか

に働かせるようにしないと、真実が真実でなくなる。それが仏法を学ぶこと」と教えています。

そうした意味で、「こころ」だけを云々してもいけないし、また、形だけにとられるのも困るわけです。

「中道」(調和)が必要だということでしょうか。(副住 高谷利行)

## みんなの「心算」

### 菩提寺

六下ユキ子作

樹令約三百年の楓の木

みどり浴びつつ寺庭あゆむ

寺庭を歩めば恋しき在りし日の

父母の姿のまぼろしに頭つ

木洩れ日のゆるぐ池の面睡蓮の

うすくれなゐの葎をもたぐ

緑陰の映る池の面ときをりに

鮎潜みぬて水輪をたつる

傘根そよ吹く風に先生の

声きくごとく歌碑を讀みたり

暑き日のつづく境内きわまりて

われのなげきもひたなく蟬は

戦ひに身を捨て果てし悲しみの

いまだ消えやらぬ戦後五十年

年月を耐へ来し公孫樹の太き幹

撫づればはるけき幼日思ふ

木の下に群がり咲けるやぶ蘭の

白きその花灯るごと見ゆ

大杉の木立のひまにあぢきあゝの

花の咲きつぐ参道を行く

## 手づくりを楽しむ会 「夢灯り」を作ろう

大みそかの夜は、除夜の鐘つきや、初詣に、たくさんの方が慈光寺を訪れます。

その時に、参道に「夢灯り」をともしたいのです。ご先祖の供養と、訪れる方々の足元を照らすために――

その「夢灯り」を、壇家のみなさんといっしょに作りたと思います。

### 「夢灯り」を作る会

一、日時 12月3日(日) 午前10時～12時

二、場所 慈光寺庫裏

三、会費 おひとり一、〇〇〇円

四、反省会 終了後、お茶のみ会をします。(おしやべり会)

五、申し込み 慈光寺へ電話で。

11月19日(日)までに。

TEL 55-2660